

大阪市立工業研究所との産官技術交流会

開催のご案内

ますます競争力の強化や製品の差別化が求められる産業界において、新産業・新事業の創出は重要な経営課題となっています。今年に入り、経済産業省は、持続的な成長のためには長期的視点に立った戦略が必要であるという観点から、新成長戦略を打ち立て、環境・エネルギーやアジアなど6つの戦略分野を重点テーマに取り上げて、今後達成すべき目標と施策の方向性を提示しました。政府はこれまでの延長線上にない「革新的技術」を早期に実現すべく、環境調和型の製鉄プロセスの技術開発、更なる省エネ・低炭素化を図るセメント製造プロセスの基盤技術開発、植物由来原料への転換を図る化学製造プロセスの技術等を推し進めてゆく方針です。このような中、市工研では、新成長戦略にある4つの重点研究分野（ナノテクノロジー、環境・エネルギー、高機能性材料、バイオテクノロジー）についてプロジェクト研究に取組み、地域企業を中核とした産学官連携の枠組みを通じて、研究成果の技術移転による企業支援を目指すとともに、大阪発のベンチャーの創出に力を入れております。

そこで、大阪商工会議所では、(地独)大阪市立工業研究所・(社)生産技術振興協会とともに下記要領にて産官技術交流会「チャレンジ大阪」の開催を企画いたします。本交流会では、市工研のプロジェクト研究や産学官連携事業について紹介するとともに、企業との共同研究や市工研で事業化を目指す最先端有望技術シーズを分かりやすくご説明いたします。また、ご参加いただきました皆様と市工研の研究者との出会いの場として交流会も併せて開催します。企業の研究開発、新事業の創出、新商品の開発などにぜひお役立ていただきたいと存じますので、多数の皆様のご参加をお待ち申し上げます。

<開催概要>

日時：平成22年9月28日(火) 13:30～17:35

会場：大阪商工会議所 4階「402号会議室」(講演会)
「レストラン・マイドーム」(マイドームおおさか1階)

主催：大阪商工会議所、(地独)大阪市立工業研究所 ○会場地図(最寄駅：地下鉄谷町四丁目駅、堺筋本町駅)
(社)生産技術振興協会

後援：近畿経済産業局、大阪市 協力：りそな銀行

協賛：商工中金、大阪市信用金庫

参加費：無料(ただし交流会は有料3,000円/人)

定員：100名(先着順)

申込み：以下の方法でお申込み下さい。

(1) FAXにてお申込み

申込書に必要事項をご記入の上、事務局宛FAXにてご送信ください。

<FAX送信先：06-6944-6249>

(2) E-mailにてお申込み

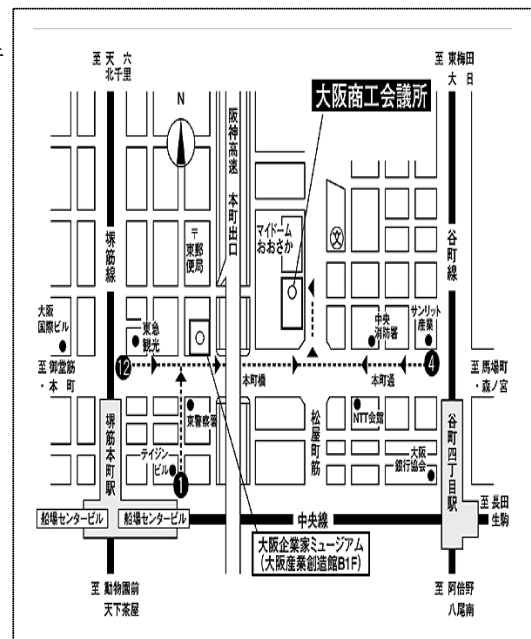
申込書と同様の必要事項をご記入の上、E-mailにてご送信ください。

<sangyo@osaka.cci.or.jp>

締切：平成22年9月21日(火)

ご留意点 参加お申し込み受理後、「参加証」と「請求書」

(交流会参加申込者のみ交流会参加費として)をお送りいたします。



<お問い合わせ>

大阪商工会議所 経済産業部 産業・技術振興担当 楠本・米道
〒540-0029 大阪市中央区本町橋2-8 TEL：06-6944-6300 FAX：06-6944-6249

＜プログラム＞

13：30～13：40 開会挨拶

大阪商工会議所 中堅中小企業委員会委員長 更家悠介 氏
(地独) 大阪市立工業研究所 理事長 喜多泰夫 氏

13：40～14：10 基調講演

「新成長戦略」

近畿経済産業局 局長 永塚誠一 氏 (予定)

＜講演概要＞経済産業省は、新成長戦略を打ち立て、環境・エネルギーやアジアなど6つの戦略分野を重点テーマに取り上げて、今後達成すべき目標と施策の方向性を提示しています。環境と経済の両立のためには、グリーンイノベーションが鍵となります。政府は「革新的技術」を早期に実現すべく、環境調和型のものづくりに関するプロセスの技術等を具体的に推し進めてゆく方針です。ここでは、それらの重点ものづくり分野について述べて頂き、参加企業の今後の技術開発の方針の参考にして頂きます。

14：10～14：55 企画開発から製品化まで一貫した技術支援に取り組む市工研

「市工研の企業支援～多様なプログラムで研究開発～」

(地独) 大阪市立工業研究所 理事 (研究担当) 中許昌美 氏

＜発表概要＞市工研では、主に化学分野に関する研究開発に取り組み、その成果を基盤として、受託研究を中心とした中小企業の技術支援に取り組んでいます。市工研と当該企業との技術開発や地域の研究機関とも連携した研究開発、大阪市の事業を通じた課題解決型ものづくり支援、公的外部資金を活用した産学官連携事業を通じた技術開発など多様なプログラムで研究開発を遂行しています。ここでは様々なプログラムによる企業の研究開発支援について概説するとともに、ナノテクノロジーに係る産学官連携事業のこれまでの取り組み事例について紹介します。

14：55～15：05 ～休憩～

15：05～16：35 市工研における開発技術・連携事業の事例紹介

「バイオ分野における市工研の活動と連携事業」

(地独) 大阪市立工業研究所 生物・生活材料研究部長 中野博文 氏

＜発表概要＞生物・生活材料研究部では、主に微生物や酵素を活用した食品・化粧品素材の開発、生物資源の有効利用、微生物制御など、バイオ関連技術の研究や企業支援を行うとともに、石けん・洗剤などの高機能化、新しい分子認識材料や繊維加工技術の開発などにも取り組んでいます。ここでは、当研究部が関わるオリゴ糖素材や脂質関連物質の事業化を目指した産学官連携事例、バイオ関連分析機器の企業活用を目的とする、市工研と近畿公設研の連携事業などを中心に紹介します。

「エレクトロニクス産業を支えるめっき技術」

(地独) 大阪市立工業研究所 電子材料研究部長 藤原 裕 氏

＜発表概要＞半導体デバイスや電子部品は、プリント回路基板にはんだ接合されることによって相互に接続され、信頼性の高い電子機器を構成しています。プリント回路基板への配線パターン形成には銅めっきが活躍し、はんだ接合部には表面処理としてめっきを施すことが必須になっています。ここでは、これらのめっき技術を解説するとともに、市工研においてナノテクノロジーを利用して開発した銅めっき技術、はんだめっき技術を紹介します。

「ポストシリコン太陽電池として期待される有機太陽電池の現状」

(地独) 大阪市立工業研究所 有機材料研究部長 大野敏信 氏

＜発表概要＞クリーンで再生可能なエネルギーとして、太陽光を用いる発電システムの重要性が世界的に高まっています。現在主力のシリコン太陽電池は原料のコスト高や供給に難があり、その薄膜化やアモルファスシリコンなど他の材料を用いる太陽電池の実用化研究が進められています。さらに、印刷法などを利用して、劇的に安価で軽量・フレキシブルな有機太陽電池も国内外で精力的に研究されています。ここでは、有機太陽電池の原理や使用される材料などを紹介するとともに、国プロに参画している市工研における研究についても概説いたします。

16：35～17：35 交流会

講演者・市工研の研究者の方々との交流、意見交換を行います。(参加費¥3000円)

FAX：06-6944-6249 大阪商工会議所 経済産業部産業・技術振興担当 行

市工研との産官技術交流会(9/28) 参加申込用紙

貴社名				大商会員・一般 (いずれかに○をお付けください)
所在地	〒	-		
氏名			部署・ 役職名	
TEL	-	-	FAX	- -
E-mail				
交流会への参加について		参加します ・ 参加しません <いずれかを○印でお囲みください>		

●ご記入頂いた情報は、大阪商工会議所からの各種連絡・情報提供のために利用するのをはじめ、講師には参加者名簿として配布します。ご了解いただきますよう、よろしく願い致します。